

前線における岩屋ダムの防災操作について(速報)
(馬瀬川(東沓部地点)の水位を2.6m低減)

独立行政法人水資源機構の管理する岩屋ダムでは平成26年8月16日～18日の前線の影響により、岩屋ダム流域で時間最大雨量29ミリ(17日8時から9時まで)、降り始め(14日6時)から18日9時までの累加雨量は428ミリを記録しました。

この降雨により、岩屋ダム貯水池へ流れ込む水の量(流入量)は、管理開始以降2番目となる最大で毎秒約1,078立方メートルに達しました。この流入量に対し、毎秒約780立方メートルをダムに貯めて、ダム下流の河川水位の低減に努めました。

この結果、ダム下流にある東沓部地点(下流基準点)において、約2.60メートル水位を低下させたと推測されます。

※防災操作とは、大雨などの際、流れ込む水の一部を一時的に貯め込むことでダムから下流へ流す水量を減らし、下流の水位を低減させることです。

※今回の発表は速報値であり、今後の精査によって数値等が変わることがあります。

平成26年8月20日



独立行政法人 水資源機構
岩屋ダム管理所

発表記者クラブ

中日新聞社萩原通信局	岐阜新聞社下呂支局
読売新聞社下呂通信部	朝日新聞社高山支局
毎日新聞社岐阜支局高山通信部	シーシーエヌ(株)メディア推進部
NHK 高山支局	名古屋テレビ 高山通信部
岐阜放送高山放送局	CBC中部日本放送 高山支局
中京テレビ岐阜支局報道部	東海テレビ高山通信部

問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 岩屋ダム管理所 所長代理 佐藤

電話：0576-35-2339

前線における岩屋ダムの防災操作について(速報)

(馬瀬川(東沓部地点)の水位を2.60m低減)

岩屋ダム流域では、平成26年8月17日から18日に前線停滞の影響による激しい降雨に見舞われたことから、防災操作を実施しました。木曾川水系馬瀬川の岩屋ダム流域では、8月14日6時の降り始めから18日9時にかけて流域平均総降雨量428ミリを記録しました。

この降雨により、岩屋ダム貯水池へ流れ込む水の量が17日3時43分に洪水流量(毎秒300立方メートル)に達したため、防災操作を開始し、17日13時22分には、流入量が最大(毎秒1,078立方メートル)となり、毎秒780立方メートルをダムに貯留しました。

その後、17日22時頃には、岩屋ダム流入量が最大を過ぎて低減期に入ったため、次の洪水に備えて、ダム下流の東沓部地点の水位をみながらダムの水位を下げる操作に移行しました。

	流域平均総雨量	ダムへの流入量が最大となった時刻	同時刻におけるダムへの流入量	同時刻におけるダムの放流量	同時刻におけるダム貯留量
岩屋ダム	428mm	平成26年8月17日 13時22分	毎秒1,078 m ³	毎秒 298m ³	毎秒780m ³

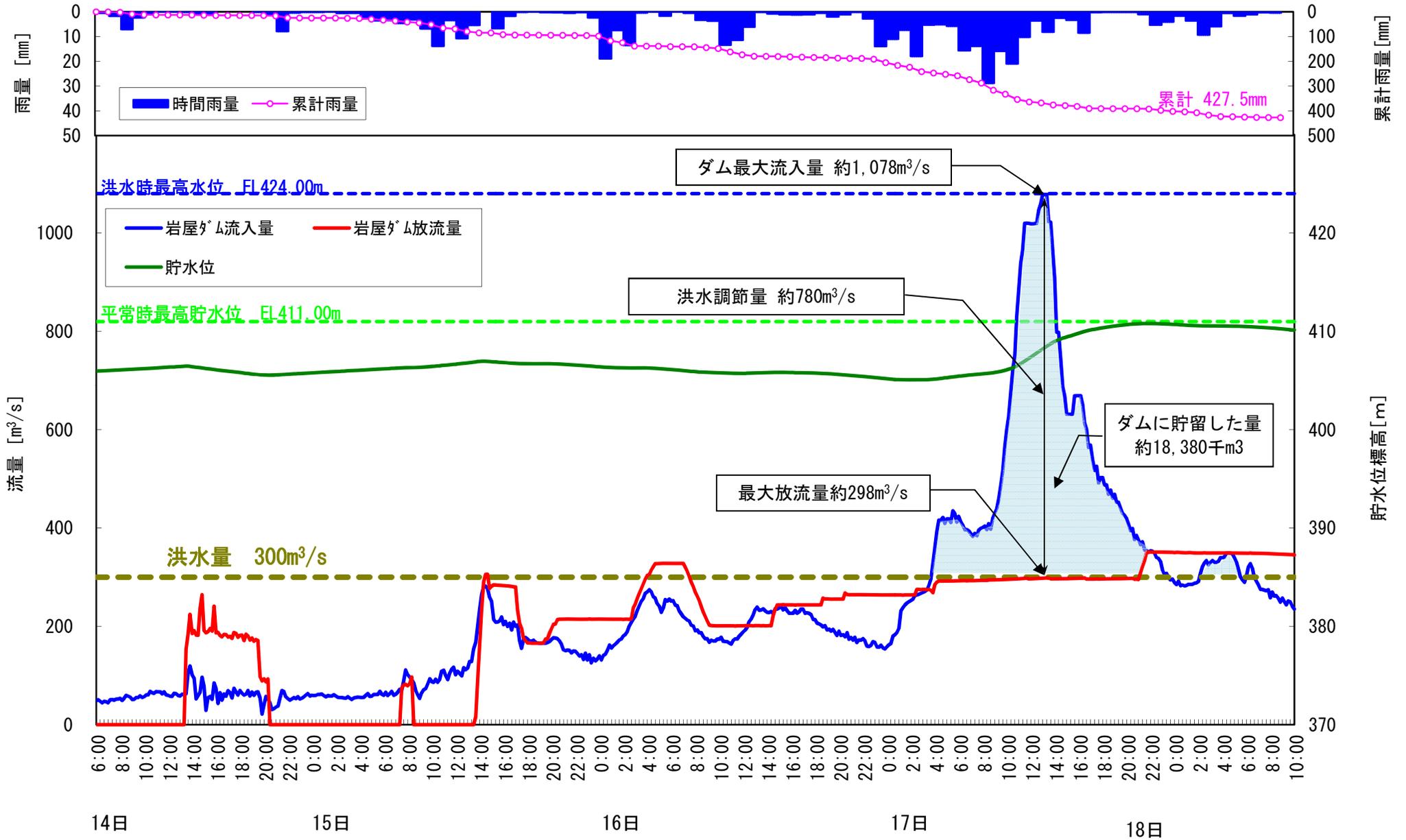
今回の防災操作により、ダム下流にある東沓部地点(下流基準点)では、約2.60メートルの水位低下効果があったと推定されます。

東沓部地点※の水位が最高水位となった時刻	同時刻における東沓部地点の河川水位	ダムがなかった場合の同地点の最高水位	水位低減効果
平成26年8月16日 5時00分	4.26m	6.86m	2.6m

※ 東沓部地点 ダム下流約9.3km、飛驒川本線合流前約7.5kmの地点

所在地 : 下呂市金山町東沓部字前田会津 1458

岩屋ダム防災操作 [平成26年8月17~18日洪水]



岩屋ダム 水位低減効果（東沓部地点）

左岸

右岸

ダムによる水位低減効果約2.60m

ダムがない場合の水位 約6.86m（推定）

実績水位 約4.26m

平常時の河川状況（東沓部）



ダムがない場合の水位 約6.86m（推定）

実績水位 約4.26m

※東沓部地点：岩屋ダム下流約9.3km、飛騨川本川合流前約7.5kmの地点
（住所：岐阜県下呂市金山町東沓部字前田会津1458）

